は其の名見えず、文字も缺落せり。Chavannes 氏は通報一九一三年十二月號に於て Ramstedt 氏の此の碑文の研究を紹介したるが、其の中に此の碑は七四六—七五九迄在位の回鶻の君主の爲に其の墓上に建てられたるものなりと曰へり、七四六年は天寶五載なれば、尙磨延啜の父裴羅の在位中に當れり、されば氏が磨延啜に對して此の在位年代を配當したるは勿論誤なり。

〔七〇〕 但し兩唐書郭子儀傳に、此の時阿史那從禮が同羅僕骨の五千騎と共に塞を出で、河曲の諸胡を誘ひて行在に迫らんとしたりとせるは、舊書本紀至德元年七月の條に「甲戌賊黨同羅部五千餘人自西出、降朔方軍」とせる事件と此の十一月の事件とを一續きに書きたるものにして、通鑑は明かに此の兩者を區別し、七月と十一月とに繫けたり。

〔七一〕 曳落河なる語は尙唐書史思明傳にも見え、「始麾下騎纔二千、同羅步曳落河止三千」と記せり、此の語は曳字が唐代には常に yil, il の音を寫すに用ゐらるゝより考ふれば（假令ば拔曳固は Bayïlqu、李德裕の草に係れる賜回鶻嗢啜斯等詔*中の曳于伽思は唐書回鶻傳其他にも見ゆる頡干（于の誤）伽斯と同じく il üqäsi を寫せるが如し）、今の Čagatai 語の輕裝兵 yilang=ein leicht bewaffneter Soldat (Radloff, Versuch eines Wörterbuch, d. T. D. III. 518) と緣故を有する語なるべし。

* 圖書集成邊裔典回紇部彙考の末に附せる回紇藝文部に揭げたる所に據る。

〔七二〕 唐書安祿山傳に「廣平王率師東討……回紇葉護以兵從通儒等、裒兵十萬、陣長安中、賊皆奚、素畏回紇、旣合、驚且囂」と記せるが如きは其の一例なり。

〔七三〕 唐書回鶻傳。

〔七四〕 兩唐書回鶻傳、冊府元龜助國討伐篇等。

〔七五〕 舊唐書廻紇傳。

〔七六〕 新書作多彥、冊府元龜及唐會要作達亥。

〔七七〕 冊府元龜（卷九七九）和親篇。